

11月9日(金)より開催！！ 取手アートプロジェクト2007 「はじまりは隣の家のアーティスト」

9年目となる今年を取手アートプロジェクトは、取手に住むアーティストのアトリエを公開する「オープスタジオ」、30年前に作られたセキスイハイムのユニット住宅M1を再利用してまちの空き地に設置する「メタユニット_M1プロジェクト」、こどもとアートの出会いを作る「こどもプログラム」の3本柱！

会期：2007年11月9～25日のうち金・土・日の計9日間
(11月9 / 10 / 11 / 16 / 17 / 18 / 23 / 24 / 25日)

会場：取手市内各所
取手駅西口中心市街地整備区域内、アーティストのアトリエ、
キリンビアパーク取手ほか

インフォメーションオープン時間：10:00～18:00

交通アクセス：JR常磐線上野駅より40分、またはつくばエクスプレス守谷駅にて関東鉄道常総線に乗り換え、
取手駅下車 西口改札を出て徒歩2分。常磐自動車道谷和原インターより車で30分（駅前有料駐車場有り）

今年で9年目を迎える取手アートプロジェクト（TAP）は、市民と取手市、東京芸術大学の3者が共同で行っています。今年度は「はじまりはとなりの家のアーティスト」をテーマとし、11月9日（金）から11月25日（日）までの金土日の9日間、開催いたします。

取手駅西口中心市街地整備区域内にメイン会場である「はらっぱ2007」を作り、インフォメーションセンターやレンタサイクルの受付、カフェなどの機能を備えた場所から、TAP2007が始まります。また、さまざまなイベントを行い、人々が集う交流の場所でもあります。

隔年で開催している市内在住のアーティストのアトリエを公開する「オープスタジオ」は今回で5回目になります。一昨年、好評だったバスツアーは今年も毎日日替わりで運行。今年度はTAP過去最高の48件78名のアーティストが参加し、アーティストの特性を生かしたワークショップやパフォーマンスは13種類もあります。

第49回ヴェニス・ビエンナーレに出品した東京芸術大学准教授の中村政人をプロデューサーに、市内外で「メタユニット_M1プロジェクト」を展開。30年前に開発されたセキスイハイムのユニット住宅M1をリユースし、開発途中のまちとアートを結びながらこれからの建築や景観のあり方を提案します。

主催：取手アートプロジェクト実行委員会（取手市・東京芸術大学・アート取手・取手市教育委員会・取手市商工会・財団法人取手市文化事業団・茨城みなみ農業協同組合・取手美術作家展）
茨城県南芸術の門創造会議（茨城県・取手市・守谷市・取手アートプロジェクト実行委員会・アークスプロジェクト実行委員会）

協賛：キリンホールディングス株式会社 / 東日本ガス株式会社 / 株式会社安井建築設計事務所 / 株式会社カスミ / 株式会社新六本店 / 取手ロータリークラブ 協力：関東鉄道株式会社 / 東日本旅客鉄道株式会社

助成：財団法人地域創造 後援：財団法人サントリー文化財団 認定：社団法人企業メセナ協議会

第23回国民文化祭・いばらき2008 プレイベント JOBAN アートライン関連企画 東京芸術大学創立120周年記念事業
平成19年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業

TAPとARCUSは茨城県南地域のアートの活性化を目指して連携しています。

オープスタジオ

48 件総勢 78 名のアーティストのアトリエが一挙に公開されます。初参加のアーティストもぞくぞく登場。ワークショップ、パフォーマンスも多数あり、その範囲は取手市内のみならず隣町である利根町にまで広がります。

TAP 的・取手のアーティスト魅力堪能ツアー！

たくさんの作家アトリエが公開されているけど、どう回ればいいのか？という疑問に答える「TAP コンシェルジュ」がインフォメーションセンターに登場！

参加作家を魅力的につなぐ、TAP オリジナルツアーも、会期中毎日開催します！それぞれ陶芸や若手アーティストなどのテーマや、エリアごとにツアーを組み、TAP スタッフが、アーティストと参加者の出会いを演出します。興味はあるけど、いざ何を話せばいいのかわからない、という方も、作家の紹介からアトリエ訪問の交通手段までセットになったツアーのため、お気軽にご参加いただけます。

当日受付 10:00～ 出発時間・参加費はツアーにより異なります。

* ツアー例：16日（金）「取手のいろんな陶芸ツアー」

（取手市立障害者福祉センターつつじ園 丸山敏郎 金田鹿男）

取手にある個性あふれる陶芸アトリエを巡り陶芸のさまざまなスタイルと作家に出会うツアー。陶芸を通し利用者の可能性を広げる活動をしている障害者施設つつじ園では自由な発想の陶芸を見ることができる。その後 2 組の陶芸家のアトリエを訪問。丸山敏郎の土のやさしさ、素朴さのある作品を庭とともに楽しみ、金田鹿男の洗練された美しいライン、素肌の作品に触れる。

10日（土）「歩いててくてくガイドツアー」

11日（日）「小文間まるごとツアー」

16日（金）「取手のいろんな陶芸ツアー」

17日（土）「となりの利根町ツアー」

18日（日）「取手の「技」探訪ツアー」

23日（金）「M1×取手ツアー」

24日（土）「いま気になる！若手アーティストツアー」

25日（日）「アートが生まれる取手ツアー」

* 9日（金）関係者・プレス向けガイドツアーを実施します。



TAP コンシェルジュがあなたにあったツアーをご紹介します！

ツアーで回る以外にも、訪れた方のご希望に合わせ、歩いて回れる範囲の見所をご紹介しますてくてくツアーもご案内します。インフォメーションにて TAP スタッフがコンシェルジュとなり、あなたに合った理想のコースプランをご案内致します。



オープスタジオ ワークショップ参加者募集中！

あかね色アートスタジオ とんぼ玉をつくってみよう

<日時> 11月9日～25日の毎週金・日曜日 10:00～11:30、13:30～15:00

<場所> あかね色アートスタジオ 取手市小文間

漆+現代美術 in 小文間工房

<日時> 11月10日(土) 14:00～17:00 <場所> 小文間工房 取手市小文間

小原馨 手作り紙粘土でオブジェをつくろう

<日時> 11月17日(土) 13:00～16:00 <場所> 白山商店街

神長蘭径 字手紙に挑戦 - 文字の姿

<日時> 11月18日(日) 14:00～16:00 <場所> 白山商店街

ミーナ インド古典舞踊オリッシ

<日時> 11月25日(日) 14:30～16:00 <場所> 取手福祉会館 レクリエーション室

その他にも、各アトリエにてイベントを企画しております！

11日(日) ファミリーコンサート(オータミュージック)

17日(土) 「音の庭」カフェコンサート(音楽家協会)

宮島達男×柴田克哉 in 小文間工房

18日(日) 「音のさんぼみち」コンサート(音楽家協会)

23日(金) ファミリーコンサート(オータミュージック)

24日(土) 集落式シンポジウム「ドメスティックアート」

= 伝統文化と国と地域と家とアート

25日(日) ソロコンサート(オータミュージック)

宮島達男×柴田克哉 in 小文間工房

小文間工房にて現代美術作家の宮島達男氏と工芸作家の柴田克哉氏の対談、交流会を行います。

日時：11月17日(土) 15:00～18:00 会場：小文間工房

集落式シンポジウム「ドメスティックアート」= 伝統文化と国と地域と家とアート

『伝統文化と国と地域と家に於ける、現代美術の自家生成の可能性』

日時：11月24日(土) 16:00～19:30 会場：ドメスティックアートプロジェクト四方山荘

こどもプログラム

取手市内の全小学1年生約800人が、M1でおとなたちがアイデアを練る様に、小さなダンボール箱で自分だけの箱を作りました。作品を作ったこどもにあててお手紙を書く「おともだちのさくひんにおてがみをかこう！」も是非ご参加ください。

児童作品展 800人のいちねんせい「のぞいて ひろげて わたしのはこ」

こどもプログラムの作品を一斉展示！多くのこどもたちの夢をご覧ください。

展示場所：キリンビール取手工場ゲストホール

会期：11月9日(金)～25日(日) 時間：10:00～17:00

平日もオープン(12(月)・19(月)・23(金・祝)を除く)

アーティスト派遣

児童作品展のために小学校へのアーティスト派遣も行っています。

10月24日(午前中、10時30分から1時間半ほど) 取手市立白山小学校

アーティスト：椎葉聡子



メタユニット_M1 プロジェクト 制作開始！

9組のゲストプランナーとのコラボレーションにより、ユニット住宅セキスイハイム M1 を再利用して、建築や景観のあり方を提案。市内外に設置される M1 サイトによりまちの隙間から小さな都市計画がはじまります。芸大駐車場に運ばれ、現在制作中です！

*メタユニット_M1 プロジェクトの進行は、ブログにて毎日更新しています。

<http://tap2007m1.exblog.jp/>

プロデューサー



中村政人(アーティスト/東京芸術大学准教授)「美術と社会」「美術と教育」の関わりとテーマにさまざまなアートプロジェクトを進める社会派アーティスト。



セキスイハイム M1 とは、住居やオフィスなどの用途に合わせ、鉄骨ユニットを配置するだけで出来る建築物。1970年に生産が開始され、量産化住宅として全国に1万世帯あり、日本の景観を作る重要な建築物として日本のモダニズム建築100選に選ばれた。

トータルアドバイザー

新堀学(建築家/NPO 地域再創生プログラム副理事長)「建築と社会」について考え、まちを「つかう人」が自ら参加するまちづくりを目指す建築家。

ゲストプランナー

北川建築研究所・緑のタマゴ



『樹の家』
心地よい居場所を求めて、木々たちが新しい家に引っ越してきた。内と外の大逆転。

Survivart



『Survival Junction』
産業・福祉・芸術の三方から取手をフォーカスすることで「取手で生きる」こと、サバイバルすることを切り取る。

ミリメーター



『Toride in the House』まちのあちこちに廊下の印象を持たせた道案内を設置し、新しい建物の形を提案する。

東京芸術大学佐藤時啓研究室



『3×M1=キョテン』TAP2007 シンボルタワー。2階建て住宅として設計されたM1を3階建てとして再生させる、あらたな挑戦。

日本大学佐藤慎也研究室



『アスレチックピラミッド』彫刻的発想から、四つのM1により自立する空間をつくる。

Link



『Liminous M1』TAP2007 シンボルタワーの最上階に夕方になると現れる、光るサイドボード。

取手を越えて、TAP「メタユニット_M1 プロジェクト」の広がり！

市内にとどまらずJOBANアートライン関連企画として常磐線沿線の千葉県柏市、松戸市でも展開します。

サーカスツアー実行委員会



『アートフェスタ「ひみつきち」』
誰もが子供時代に戻ることが出来るような、展示・イベント・ワークショップを開催。

会場：「柏駅」東口・西口駅前

会期：11月10日(土)～25日(日) 11:00～20:00

新松戸仰天芸術



『公園に集まった愉快的な仲間たちの家』
「コミュニティの拡張性(国際交流)」をテーマに作品を展示し、演奏会やパフォーマンスを行う。

会場：「松戸駅」東口から徒歩5分松戸中央公園内

会期：11月10日(土)～11月18日(日) 11:00～17:00

拠点「はらっぱ 2007」を舞台にイベント開催！

TAP2005 で登場した「はらっぱ」を見上げる駅ビル脇の空き地に、M1 を使って、今年の拠点となる「はらっぱ 2007」が現れます。ステージなどを設置し、各種イベントを開催致します。一般公募した M1 のアイデアプランも実施されます。

詳細は TAP2007 ウェブサイトへ <http://www.toride-ap.gr.jp>

はらっぱで行うイベント一覧

・ 11 月 10 日 (土) 17:00 ~ 18:30

『隣の国のアートプロジェクト～韓国の地域系アートプロジェクト事情』

TAP と同じアートプロジェクトの「stone&water」と「UIJAE ART STUDIO」のディレクター2 人が韓国のアートプロジェクトを報告します。

ゲスト：パク・チャンウン（アチムメディア出版代表）、ペク・キヨン（アーティスト）

・ 11 月 11 日 (日) (本公演) 11 月 17 日 (土)・18 日 (日) も市内巡回公演

『劇団ピクニック』

事前にあるワークショップで参加する子供たちとセリフや衣裳などを決めて、本公演で発表します。

プランナー：NPO 法人芸術環境支援機構の会ピクニック探検隊

演出：柏木陽、青山公美嘉（共に NPO 法人演劇百貨店）

ゲスト：徳久ウィリアム幸太郎（ボイス・パフォーマー）浅野純人（第 0 研究室）

・ 11 月 11 日 (日) 19:00 ~ 21:00

『しでかすさんといっしょ!!～しでかす！取手劇場～』

きぐるみ・アイドルユニット・しでかすおともだちが活弁と生演奏とぬいぐみでパフォーマンスを行います。

プランナー・パフォーマンス：しでかすおともだち

ライブ：ルチャリブレ 活弁：山田広野



・ 11 月 16 日 (金) 18:00 ~ 19:30

『隣の芝生会議』

隣の芝生はよく見える？近隣のアートプロジェクトの取り組みと展望を話し合います。

司会：熊倉純子（東京芸術大学）

ゲスト：石戸新一郎（JOBAN アートラインプロジェクト柏）、遠藤水城（アーカスプロジェクト）、

江上弘（我孫子野外美術協会）

・ 11 月 17 日 (土) 18:00 ~ 19:30

『はらっぱ会議 vol.2』

TAP2005 で「はらっぱ」について自由に語り合った「はらっぱ会議」。当時の参加者に中村政人を加え、M1 が組み込まれた場所で「はらっぱ」の現在点を探ります。

ゲスト：中村政人、藤浩志（TAP2005 ゲストアーティスト）、森司（水戸芸術館）、株式会社安井建築設計事務所



・11月23日(金) 18:00~20:00

『アーティストトーク 平田五郎「Inside passage - 月を盗んだワタリガラス」』

取手市在住で TAP2004 に出展した平田五郎氏が、五島記念文化財団美術新人賞受賞により 2004 年 10 月から 1 年間アラスカでおこなったフィールドワークの成果を語ります。

・11月18日(日)

『ミーナ オリッシィ Live in M1』 17:45~18:30

インド古典舞踊オリッシィ公演。複雑なステップ・リズムで構成され、多くの美しいポーズが散りばめられる。(アーティスト:ミーナ)



『elephant ant man』 19:00~20:00

インドネシアの伝統的な影絵と、ジャワガムラン、アニメーションによるコラボレーション作品。幻想的な音色にのって象、アリ、ヒトをめぐるお話が展開されます。

(プランナー・パフォーマンス: HANA JOSS、早川貴泰、松本祐一)

『Pangaea』

Pangaea は座面が芝で覆われた、移動椅子です。座面は六角形で、組み合わせることによってさまざまな面積で使うことができます。1人掛けの椅子や、ベンチにも、ベッドにも、野原にもなります。芝生の椅子は、会場のあちこちで見つけることができます。(プランナー:石塚つばさ)

M1 ソフトプランとして会場各地に設置されます。



関連事業

Break ステーションギャラリー 共鳴するヴィジョン 2007—取手のアーティストたち—

日時:10月27日(土)~12月7日(木) *11月16日(水)は展示入れ替え日です。

会場:JR 上野駅正面玄関口「ギャラリー」2F Break ステーションギャラリー

JR 上野駅 Break ステーションギャラリーでは、取手アートプロジェクト(TAP)2007 の開催にあわせて取手市在住のアーティストの作品を展示します。東京芸術大学取手校地があり、JR 常磐線の始発駅としても知られる取手では、多くの作家がアトリエを構えて創作活動をおこなっています。今回ご紹介するのは、それぞれ作風も経歴も異なる6名のアーティストです。

第1期 10月27日(土)~11月15日(木)

第2期 11月17日(土)~12月7日(木)

来栖 義明 / ダフナ・アヴィダン / 正木浩司

平田立人 / 天野亨彦 / 今川治郎

本件に関するお問い合わせ

取手アートプロジェクト実施本部

〒302-0024 茨城県取手市新町2-3-16

Tel & Fax: 0297-72-0177 (火・金 13:00~17:00)

E-mail: tap-info@ima.fa.geidai.ac.jp

担当 (中山亜美 080-5544-6597 宮川智美 090-7194-0600)

まちを彩る 48 件のアトリエ(オープスタジオ作家紹介)

5 回目を迎えるオープスタジオは、48 件 78 名のアトリエを一挙に公開。陶芸、絵画、写真、現代美術、インド古典舞踊など、様々なジャンルの表現者が取手のまちに暮らしています。

01 障害者福祉センターつつじ園
芸術教育を積極的に取り入れ、さおり織り、陶芸、書道などの作品を多数制作している。毎年 9 月におこなわれる「つつじ園まつり」では作品を展示販売するなど、市民に開かれた施設を目指している。



02 濱田雅三

取手生まれ取手育ちの画家。モザイクや大理石レリーフなどによる公共作品を多数制作している。永山公民館入口の壁に作品を制作展示。来場者と一緒に制作をするワークショップもおこなう。

03 取手市音楽家協会

2007 年に発足。専門はピアノ・声楽・バイオリン・ファゴット・フルート・クラリネット・プサルタリー・ギターと幅広く、クラシックにこだわらず様々な曲を市内各所で演奏している。期中コンサートを開催。

04 海老原靖

東京芸大修士(油画)修了。現代美術家。取手生まれ、取手育ち。映画俳優をモチーフにして油画、映像、彫刻など様々な分野での制作をおこなっている。オープスタジオは 5 回目の参加。都内でも精力的に個展を開催。



05 Moriyama-Wiffen

取手出身、3 回目の参加の森山優子と、Keith M-Wiffen のイギリス在住のアーティスト夫婦の作品展示。実家のアトリエで、鉛筆、グラファイトなどを用いた水面の風景画とエセックスの海岸風景写真を展示。



06 佐々木幹雄

造園家、自然写真家。13 回の転居後、小貝川に魅せられ移住。利根川の自然に詳しく、その自然美を写真、作庭、生活の中に求める。手作りのアトリエでは和やかな時間が流れる。23 日は夜の自然の雰囲気堪能できる。

07 内村直生

ガラスアーティスト。アトリエには大きな作業台、自作の窯が大小 2 つ、製作用の道具や色とりどりの素材などが並び、ドローイングやオブジェを制作。11 月に大森でおこなう 2 人展の準備作業を公開。



08 辻耕

現在、主に表現×メディア÷遠近法をテーマに制作。世界との<界>を顕在化させてゆく行為が作品になる。移動に伴う身体感覚の変化や個と共同体の記憶をドローイングしたり、絵画の手法で測るのもその一つ。

09 小原馨

武蔵野美術大学別科実技専修科(油絵専修)卒業。美術家、ろう学校美術教師。鮮やかに彩色された手漉き和紙でレリーフ状の作品を作る。観るだけでなく、触覚を体験できる作品も制作している。



10 神長蘭径

書道家。誰にでもわかる書体と、温かみのある線質で文字を表現。作品を制作する傍ら、高校書道講師や文化教室の講師も勤める。18 日に開催するワークショップ「字手紙に挑戦」では、書の魅力と楽しさを教える。

11 来栖義明

高校卒業後、いくつかの職業を経て、30 代半ばにして絵画に目覚める。オープスタジオ参加を希望し、今年 4 月に取手市に転居。自宅兼アトリエでクレヨン、アクリル、墨などを使って絵画を制作している。



12 丸山敏郎

高校教諭として勤務後、55歳でニューヨーク美術大学 SVA に留学。帰国後、取手市白山に窯を開く。木々に囲まれた工房で、信楽の土を用いた食器やオブジェを制作。陶芸教室を公開する。



13 猪股・近藤共同アトリエ

東京芸大修士(先端)在籍中の猪股あき、近藤美智子の白山商店街にある共同アトリエ。猪股は音やシャボン玉、水滴などを素材に、近藤は映像や光など様々なメディアを用いて作品を展開している。



14 金田鹿男

取手市にある弘経寺の次男として生まれる。1967年、取手市白山に築窯。全国各地にて個展を開催。朝鮮半島の高麗時代(10~14世紀)に起源をもつ象嵌技法をとり入れ、独自の象嵌、刷毛目、粉引の作品を制作している。

15 取手アトリエ gimmickarts

芸術系大学受験予備校取手アトリエの併設ギャラリー「gimmickarts」で、代表である前田正憲(画家)の個展と内藤信(画家)の個展を2期に分けておこなう。岩絵具を用いた絵画を展示する。

16TIKO(ティコ)

東京芸大(先端)修士、学部在籍の岩本愛子、松下徹、木幡蓮、岡田洋坪、佐藤悠、平井浩貴、老田麻衣の7名が一軒家を共同アトリエとして利用。会期中は作品展示のほか、メンバーが制作した映像作品も公開する。

17 出田・藤原共同アトリエ

知覚や身体感覚をテーマに建築資材や光を用いて作品を制作している出田郷と、日々の中で物事を見つめることから湧き上がる気持ちの変化点を絵画で表現する藤原佐多央の倉庫を改装した共同アトリエ。

18 渡部華子

東京芸大修士(先端)在籍。定期的に個展を開催。作品を「もの」として見せるだけでなく、観る人がモチーフである光や色を「現象」として体験できる空間をつくりだす。会期中は光を使った作品を自宅で展示する。

19 鈴木勲

東京芸大教育研究助手(先端)。旅とアートをつなぐ。太陽光、風力など自然エネルギーを動力にした乗り物でアジアを中心に旅する。今夏は、廃食油でバイオ燃料を作り耕うん機で白州 琵琶湖往復の旅をした。



20 第0 研究室

TAP2003で、壁画制作を機に設立。現在は浅野純人、北岡竜行、傍嶋賢の3名で活動。市民と芸大生の架け橋となるプロジェクトを企画・運営している。会期中は、芸大卒の工芸作家グループ展を開催。



21 島田忠幸

多くの野外展、オーストラリアやグルジアなどの国際展に出展。過去のTAPでは巨大砂時計や古利根沼でサッパ舟による浮橋を制作。風景の中にとけ込み見えなくなる立体作品を手がける。



22 石山宣伝研究所

グラフィックデザイナー。茨城デザイン振興協議会理事の石山清一、石山理親子が事務所を公開。TAP1999から参加。ポスターやパンフレット、ロゴマークなどを制作し、デザインの可能性を追求している。

23 アトリエ観音堂

取手市指定文化財 東漸寺山門観音堂の管理棟を東京芸大(先端)在籍の7人が共同アトリエとして利用。伯耆田卓助、間瀬朋成、竹内公太、石塚つばさ、森田舞、田中一平による様々なジャンルの作品を展示。

24 ミーナ

12世紀頃、東インドで発祥しヒンドゥーの神ジャカンナートに捧げられた奉納舞、オリッシィを踊る。インド映画祭での公演をきっかけに主婦から舞踊家となる。会期中は公演、体験教室をおこなう。



25 石引写真館 gallery IMS

石引写真館が設立したギャラリー。会期中は、父・石引まさのりによる「うぶあがり島」の



写真と息子・石引卓による取手の写真を展示。会期前に開催されたワークショップ「フォトグラムであそぼ」の作品も展示する。

26 梅木隆

秋田公立美術工芸短期大学卒業。写真、言葉、声などを用いて、人と人との関係性を主題に表現する。普遍的な日常生活における母と子の関係、家族、介護などを通して見えてくる信頼関係のあり方を形にする。

27 島田三郎

日本画家。07年取手美術作家展会長。創展理事。創展などで多数の賞を受賞。多彩な色彩を用いて迫力のある日本画を制作している。会期中は古い佇まいの残る商家である金門酒蔵で作品展示をおこなう。

28 柴田克哉

工芸作家。木と漆で、人々の暮らしを楽しく豊かにする作品を制作。木では指物の技法を中心に日本の木材にこだわり、漆では木を生かした塗りから、乾漆、蒔絵まで様々な技法で自由に表現している。

29 あかね色アートスタジオ

浅川央圭。東京芸大修士(彫刻)修了後、東京ガラス工芸研究科を卒業。ホット・キャスト等の技法を用いてガラス彫刻を制作。



現在はバーナーワークでとんぼ玉等を制作。会期中は、とんぼ玉ワークショップを開催。

30 小文間工房

元農協を共同アトリエとし、東京芸大工芸科出身または在学の漆・鍛金・彫金作家6名、柴田克哉(代表)、磯崎えり奈、押元信幸、茂田典子、成瀬好徳、宮本沙織が活動。人が幸せになる作品を制作する工房を目指す。



31 アトリエ蔵

大谷石造りの倉庫を東京芸大出身の彫刻家、浅川洋行、片山健、佐藤正和、森岡慎也が6年前に共同アトリエに改装。主に石材を使い、石の魅力を生かした作品を制作。制作現場の公開のほか「蔵の歴史」をパネルで紹介。

32 福田玲子

洋画家。巨大なキャンバスに生命感あふれる大地を描き、あらゆるメディウムを使い写実的な画面を創りあげている。朽ち果ててゆく自然の様から生死を見つめ、力強いエネルギーを感じる作品を制作。

33 松村真

造形作家。無垢材による創作木工家具および附随する金属金具等を制作。木を刻むときの音や感触の心地よさだけでなく、それを組むことによって現れる構造的な形と空間に木工の醍醐味を感じながら作品を作る。

34 小池昌子

七宝作家。(社)日本七宝作家協会会員・理事。日本画の経験を生かして組み立てたイメージを七宝焼で表現し、平面・立体作品を制作。アトリエ公開時にワークショップを開催、七宝アクセサリー作りを体験できる。



35 奈良榮子

「漂流」というテーマで裸婦を描く。障害を抱えた青年達と共に絵を描いたり、作品展開催の手伝いをする事で多大な影響を受ける。彼らの作品とともにふじしろ図書館ギャラリーで展示をおこなう。

36 先崎宗岑

仏像彫刻師。寺院に献納する仏像や、在家仏を制作、修復。東京、千葉、取手にて仏像彫刻教室を開催するほか、木彫作品も制作。著書「越前立木観音」で仏師の制作と半生を語る。毎年各地で個展を開催。



37 松本祐一

IAMAS(岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー)卒業。現在、東京芸大教育研究助手(先端)。アンケートを行い、その回答をもとにした音楽作品をつくる。アンケートアートという独自の手法で作品を展開。

38 オータミュージック

太田晶章。ファゴット奏者。会期中、児童作品展会場と自宅スタジオでコンサートを開催する。日頃演奏することがない楽器を体験したり、無料の個人レッスンやファミリーレッスンを受けることができる。



39 小牟田悠介

京都造形芸術大学卒業後、東京芸大修士（先端）入学を機に藤代に住む。コラージュの手法を用いて、あらゆるものを使って作品を制作。藤代駅前空き店舗の1階をアトリエとして公開する。



40 山本努

京都造形芸術大学卒業後、東京芸大修士（先端）入学を機に藤代へ。目に映るモノは常に移り変わる、そんな表面の深層に興味を持ち、映像や絵画のような作品を制作。空き店舗を利用したアトリエで制作現場を公開。

41 アトリエ倉

彫刻家。倉持芳の遺族が、作品を収蔵・展示し地域に公開することを目的に設立したアトリエ。地域文化化育成の活動拠点として「文化工房ふじしろ」が地域社会に密着した様々な活動を企画・運営している。



42 アトリエ 4

天野亨彦（東京芸大修士修了）、今川治郎（東京造形大学卒）、平田立人（東京芸大博士在籍）の3人で、元ライフル工場をアトリエにし主に絵画を制作。社会と個人との関係性を、個々の方向性から表現する。



43 陶陽庵

東京芸大の卒業生を講師に招き、陶芸教室を開催。現在、韓国出身の沈廷輔（シム・ジョンボ）氏が指導にあっている。工房へ通じる庭園は、四季折々の樹木や花が様々な表情を見せ、和の情緒を堪能できる。

44 幸一 & ダフナ

羽川幸一は、人物・風景のドローイングや、16mm・8mm フィルムで撮影したドキュメンタリー映像を、ダフナ・アヴィダンは、エアブラシや油彩を使った絵画や、コラージュを用いたアートブックを制作する。



45 正木浩司

東京芸大修士（壁画）修了、個展やグループ展の制作活動と、「正木屋」として造形や壁画制作の活動を開始。絵画・彫刻・レリーフ・壁画と、様々な素材、形態、手法を使い、想像の原点を形にする試みを続ける。

46 四方山荘

菅野麻依子、石井瑞穂、安田暁。アーティストの生活空間を、サイトスペシフィックな作品展示の場として、その有効性を探りながら、更なる発見を促す為のプロジェクトグループ。アトリエでシンポジウムも開催する。

47 平塚正義

パステル画と彫刻を制作。取手在住、利根町にアトリエをかまえる。取手駅西口ロータリー、取手一中、取手東中、文間小など近郊小中学校のブロンズ像も手がける。パステル画の個展も開催。



48 創作工房・ゆうび

箱岩美喜。東京芸大修士（壁画）修了後、個展や野外展などで作品を展示。99年「創作工房・ゆうび」を開き、絵画・陶芸・造形などの美術指導にあたる。会期中に、卵にペイントをするワークショップを開催。